

川越市総合計画基本構想に関する意見書

誇りある川越の未来に向けて

“21世紀の川越を考える” 市民協議会

ご 挨拶

昭和五十八年八月川越市より発表された総合計画（基本構想、基本計画）に対し、市長並びに市庁内各関係委員、そして特に川越市総合計画審議会委員の皆様には心からなる敬意を表する次第であります。私達市民協議会も(社)川越青年会議所と協力し、いち早く発表された計画案に興味を示し、二月より六月にかけて精力的に検討会（勉強会）を実施致しました。全会員が三つの分科会に分れ、月に一度の定例会以外に数回にわたる会合を開き、広範囲な観点から議論を展開し、各々の分科会から、近代的な感覚、ユニークな発想、町を想う心からなるさまざまな意見が出てまいりました。ここに、これらの意見、提言をまとめましたので、広く市民の皆様、行政各機関の皆様に御一読いただき、今後この総合計画が実施されていく過程での参考にしていただければ幸と考えております。

“21世紀の川越を考える”市民協議会

代表幹事 江原清治

一) はじめに ～血につながるふるさと～

自由な討議と自主運営を結成時から遵守している「21世紀を考える川越市民協議会」の基軸は、〈川越のまちづくりに市民の声をいかに反映させるか〉である。

市民協議会の人的構成は、市内の各層の意見を代弁しうることが可能なように配慮されている。いわゆる権利の主張のみを主たる目的とした圧力団体ではなく、市民としての果すべき役割を十分に心得ているはずだ。

1983年の例会は、市当局より提示された「川越市総合計画基本構想(案)」が現実の〈まち〉づくりに及ぼす影響を討議してみた。市内在住の知識経験者など20人で構成された川越市総合計画審議会の諮問と市民アンケートの調査結果が基盤となつてつくられたものだが、果してそれで十分に市民の声が反映されているのであろうか。

■ 私たちは逐条読み合せを行ないながら、それぞれの意見を述べあつた。

■ その結論として、市民の生活実感に基づいた発想が非常に稀薄だと感じた。何かタテマエ論で終始しているような気がしてならない。早急に具体的な実施要綱を策定する必要があると思う。またこの総合計画基本構想が市民の意識として定着しうるようなPR活動を実施し、市内随所で議論が巻き起るようにならなければならない。そうなつてこそ、一人ひとりの市民が川越の未来に期待を持つことができるはずだ。〈まちづくり〉に参画することによって、川越に誇りをいただくことが可能となつてくる。

(社)川越青年会議所が企画した「明日を語ろう市民の集い」の中で行なつた調査では、基本構想を知っていると答えた人はわずか30%しかいなかったのである。しかもこの集いに参加した人は、〈まちづくり〉に対して、意識の高い人々である。市の広報の方法に問題はないかとの意見もあつた。

市当局は、未来の川越の都市基盤に重大な影響を及ぼす総合計画基本構想を

策定する場合、時間をかけて広聴会や小グループでのタウトーキング等を開催し、市民の声を集約すべきではないだろうか。一人でも多くの市民の声を行政が的確に把握し、それを昇華させ、具体的な内容に成文化し、それを波及させる努力を行なうこと。それが市民参加による開かれた行政体につながるのではないだろうか。その繰り返しの過程に於いて現代では空洞化された言葉といえる「郷土愛」が復活するはずだ。

現在川越の〈マチ〉から個性が失なわれつつあるという危機感が生じている。その危機感を行政と市民が一体となって乗り越えていく努力の結集が、木曾馬籠の藤村記念堂に書かれている。「血につながるふるさと。心につながるふるさと。言葉につながるふるさと。」の意識がよみがえってくるのではないだろうか。

私たち市民協議会のメンバーは、川越の〈マチ〉を、あたたかい人情味あふれるふるさとにしたいと願っている。

そして古社寺と蔵づくりの街並がかもしだす重厚な風格に、県西の中心都市として近代的な活力ある街区が調和した都市をつくるために一市民としての努力を積み重ねて行きたい。

以下に私たちが討議した過程を記しておく。

二) 実施のための行動と財政基盤の確立を望む

市制 60周年に制定された市民憲章も、その精神が市民に定着していないと思う。憲章の精神を生かすための広報活動を繰り返し、市内のあらゆる組織や団体で斉唱されるように努める必要がある。

また憲章にふさわしい〈マチ〉づくりを行政側で推進するための財政基盤の確立を急がねばならないと思う。

総合計画基本構想もそれを具体化するためには財政基盤を確立しなければ画餅にすぎない。私たちは水上公園への交通網の整備を中心として、都市公園法

による人口一人当りの占める各種公園の確保について試算しただけでも 100 億をはるかに超えるものとなっている。

県や国の予算の活用をはかり、場合によっては第三セクター方式による民間資金の導入等を考えて、一步一步実現化を図って行かねばならない。

市民の積極的なニーズに応えうるものであるならば、1口千円のナショナルトラスト方式による基金づくりを行政と市民が一体となって進めて行く方策を見出すべきであろう。市民意識を高揚させるためにも、「生活者としての市民の創意工夫の実践の場」をどのように創造していくか、行政の積極的な姿勢を示すべきだと思う。

そのためには市民との協調を図り、基本構想案の内容を実現するための実施計画の策定を着実かつ大胆に進めて行くべきである。

「低成長時代に入り、従来の行政単独の市政運営が困難である」ならば、市自体も意識転換を図り民間企業の効率性を加味して行かねばならない。行政に停滞を生じないよう配慮し、地域エゴと市民のニーズを区別した施策を行ない、社会資本の充実を図るための財政の運用を心がける必要があるだろう。

三) 新しい波 ～ニューローカリズムによる開かれた市民社会を求めて～

(社)川越青年会議所のアンケート調査によると、現在の川越のイメージカラーは灰色である。将来は、期待を込めて緑色という結果であった。多くの市民は緑にかこまれた、うるおいのある街を望んでいる。

今、川越市民の共通化した危機感は、首都圏のベッドタウンとして没個性なく〈マチ〉になってしまうことである。高階・大東・霞ヶ関の急激に人口増加した地区と旧市街地との有機的な関連(商業・交通体系等)を考えた施策を推進し、市民の願いを受け入れて、川越のマチに活力をよみがえらせることが必要である。

私たちは、新総合センターの設置案を高く評価した。老幼青年男女の全ての

ゼネレーションに属する人々が、一体となって利用しうる施設を建築し、ここを基点としてコミュニティが創造されることを望む。

「市民と行政との共同作業によるコミュニティづくり」を進めて行くことは、“地方の時代意識”を両者が確認することから始まるのではないだろうか。

今までの中央集権的システムから地方分権的システムに軌道修正することは、川越という一つの〈マチ〉だけでは不可能なことかも知れない。しかし市民と行政が〈マチ〉づくりで果すべき基本的な役割を相互理解することによって、この“切り換えの思想”は川越市民にしたいに浸透していくはずである。

時代はまさしく工業化社会から新しい高度情報化社会への一つのコペルニクスの転換をはかりつつある。そのプロセスはいわゆる集中から分散へのシフトまたは集権から分権への軌道修正ともいえる。私たちはこの考え方をニューローカリズムと名づけた。

その思想的な体系は、自治に焦点をあてる政治を確立するためのものである。次にこの考え方の基盤をなす7つの概念的シフトを記しておこう。

- ①全体から個へ ②普通性から多様性へ
- ③中央集権型から地方分散型へ
- ④没個性化から個性化へ ⑤行政の独占から市民との共有へ
- ⑥秘密主義的官僚行政から開かれた民主的行政へ
- ⑦地域経済の集中的支配から経済の独自性へ である。

私たちは時代の史的転換期の中で、川越という、歴史と伝統に支えられた地方のマチの未来に対して、以上の考え方を基本として構築した〈マチ〉づくりのための市民協議会案を提示しておく。そして今後も大胆な発言を展開していく所存である。

『川越市総合計画・基本構想』に関する提言

▣ A … 商業・工業

▣ B … 教育・文化・スポーツ

▣ C … 生活環境・地域社会・市民生活

“21世紀の川越を考える”市民協議会

市が公表した『川越市総合計画・基本構想』の中から、市民生活を営む上で、最も身近かな問題であり関心の高い「第4章・施策の大綱」について検討を加えてみた。

①…都市・地域基盤 ②…農業・商業・工業 ③…教育・文化・スポーツ
④…保健・医療・福祉 ⑤…生活環境 ⑥…地域社会・市民生活 という6項目に大別されたテーマはそれぞれに関連が深く、単独項目に絞っての検討は困難である。討議を重ねるにつれて、単に行政的感覚のタテ割りのテーマ区分に疑問を抱くとともに、『基本構想』に表現されていた文面が、極めて抽象的であり無味乾燥な言葉の羅列であったことに、少なからず失望したものであった。

そこで、一市民グループである市民協議会としては、A…商業・工業 B…教育・文化・スポーツ C…生活環境・地域社会・市民生活 の三項目にテーマを絞り、その中の一端について考え、まとめてみたわけである。とくに、昭和70年という目標までに実現可能と思われるもので、市民生活の場から発想した、より具体的な願望を「基本構想」としてとらえ検討したわけである。

中には、早急に実現できるであろう短期的な問題や、かなり長期にわたって慎重な研究を要する問題も含まれている。しかし、真の市民参加をベースにして、専門家のソフトとハード、さらに行政の優れた指導力と統率力をもって当るならば、地域の特性を生かしたマチづくり、生きがいのあるマチづくりへ向った血の通った“指針”として、市民生活に定着するはずである。それは、次なる実施計画のスムーズな展開へ着実に結びつくのではないだろうか。

▨ A … 商業・工業

東京の隷属都市でなく、産業的にも農工商がそれぞれバランスのとれた都市構造を築き、加えて伝統文化の保存、維持、開発を行い、自立性の高い首都圏中核都市として風格のあるマチを目指す。

そのためには、まず川越市全体の道路網の整備、拡充を図りつつ次の拠点づくりが急務ではないだろうか。

〈商業〉

1) …行政（官公庁）施設の拠点整備

市役所を中心にした行政区画を拡張し、すべての行政関連施設を集結させることにより、近代都市機能を高める。

※現在の川越市は行政区が一本化されておらず、バラバラに点在し不便である。登記所、税務署、職業安定所、社会保険事務所、国民金融公庫…その他、国や県の出先機関、さらに商工会議所、諸団体、諸組合事務所なども含めて、一カ所にまとめることが出来たら何んと便利なことか。

場所については川越小学校を移転することによって可能である。つづけて、川越高校、初雁中学校と順次移転させることで一大行政区が誕生する。

※現在の川越小学校は、市内北部の18町内の通学児童で成り立っているが、その70%の生徒は神明町と宮元町で占められているのが実態である。これは学校が学区の最も外れに位置しているからである。川越小学校を神明町方面の北へ移転（バイパスの外側でも可）し、一部の町内は第一小学校を利用すれば通学区もすっきりとし効率的である。

※新築後間もない校舎については、教室を改装することで十分に活用できるはずである。費用に関しては利用者の家賃収入でまかなえるし、近い将来には学校移転費プラス利益までが見込まれる。

※行政区が一本化することによって、北部の旧市街地を訪れる人が急増することが考えられる。商店街にも活力が戻ることもなるう。

2) …教育施設の拠点整備

行政（文化）施設の拠点整備と並行して教育施設の拠点づくりを展開する。

現在、旧市内に点在する小・中・高校の移転（川越小・川越高・女子高・川越工高・川越農高など）を行い、広大な跡地を再開発する。

※上記の各校の移転に、幼稚園から大学までを加えた理想的な学園区の建設が考えられる。運動場、競技場、プール、図書館などは、学園区として総合的に設置し、定期的に市民解放を計画すれば、より親しみのある学園都市となる。

※かつて、川越の各高校はマチの外れに位置していた。高校生であれば、学校がバイパスの外側にあっても問題が生じることは考えられない。

3) …個性豊かなマチづくりのために、合せて蔵造り家屋保存地区を再開発する導線としての本川越駅以北の整備、再開発。

※具体構想としては、本川越駅前・新富町を起点にし、連雀町、銀座通りを含めた仲町通りまでの道路拡張（中央通り線と銀座通り線を一本の道路とする）。緑豊かな中央イベント公園とし、地下をショッピングセンターと駐車場とする。

4) …蔵造り商家の残る一番街通りと仲町通りを老舗（しにせ）通りとして再生。

※電柱、電線の撤去（地下埋設）

※看板、広告塔のデザイン規制、補助

※店頭デザインの規制、補助

※水飲み場とトイレのある小公園の建設

※山車の常設展示館の建築

※交通規制と一方通行の見直し。

※城下町時代の旧町名の復活

5) …川越の顔、玄関口にふさわしい、特色のある川越駅東口再開発を。

※全国どこの都市にも当てはまるような特色のない駅前再開発でなく、歴史と文化のマチ川越にふさわしい個性の感じられる再開発としたい。その意味からしても駅前ビルの建設はナンセンスである。緑があり、老若男女が集い、憩うことのできる多目的な広場（公園）とすることは無理か。さらに地下には駐車場の建設を強く希望したい。

※サンロードから新富町、そして北部へと広がる商店街を圧迫するような核店舗を有する商業ビルの建設には、賛同しかねる。川越はあらゆる観点からして奥行きが深いマチである。駅に降り立った人がマチを回遊してこそ意義もあり、川越を理解できるわけで、駅前だけで用を足すことができるような再開発は、さらに一考を要する。

6) …市内循環バスの運行

単に観光目的としてでなく、ショッピング、通勤、通学など幅広く活用できる市民のための足の確保。

《工業》

1) …工業団地の拡大、市内の生産・加工業者（工場）の工業団地移転。

※市街地内に点在する工場の統合化と移転援助制度。

※無公害都市運動の推進。

2) …川越にふさわしいオリジナル物産の開発と補助制度。

《まちづくり》

◎ B …教育・文化・スポーツ

《教育》

市が公表したものは学校教育を主体として考えられている。もちろん学校教育が基本であり大切なことには変わりはないが、今後の問題として、あえて成人教育、市民教育の場の確保と充実こそ、大きな課題として取り上げてみたい。

《市民憲章の周知徹底》

1) …市民憲章の周知徹底

川越市民の生活憲法でありルールである市民憲章の積極的PR。

※PR推進のための市の予算化と民間委員会の設置。

※市議会をはじめ、各種組合、団体、企業、学校などにおける市民憲章の唱和運動の推進。

2) …市議会の傍聴運動の推進

※一人でも多くの市民が市議会を見学、行政に親しみ理解する運動の展開。

※市議会議員定数の見直しと市職員定数の見直し。意識改革と活性化運動の推進。

3) …地域リーダーの養成、教育

地域社会活動における指導者を育成する。あわせてコミュニティ活動のリーダー、管理者を育成、援助する。

4) …クリーン川越、ゴミのないマチの条例化、あき缶、タバコのすいがらなどの投げ捨て防止運動。罰金制度の採用。キレイなマチ、そうじの行き届いたマチづくりへの躰（しつけ）教育の推進。

5) …義務教育における社会実教育

小、中学校の社会教育として、課内での企業労力参加と課外での社会奉仕

参加を実施する。

※実際に手に汗して働くことの大切さと、社会奉仕することの意義を実践を通じて身につける。また、タテとヨコの人間関係のありかたを学ぶものとする。

《文化》

数多く残されてきた歴史的文化遺産の保存と活用に加え、新しい時代にマッチした文化の育成に力を入れる。とくに次代を担う若者たちに魅力のあるニューカルチャーづくりを通じて、広く郷土愛を育くむ運動を全市の各ブロックで推進する。

1) …各種文化施設の拡充

博物館、美術館、音楽ホールなどに代表される文化施設の拡充を図る。あわせて第2市民会館、多目的ホール、イベント広場の拡充も進める。

※とかく川越は「ないない尽しのマチ」といわれている。とくに文化施設の不足、立ち遅れは相当なものである。ありがたくないキャッチフレーズの早期返上を図り、名実ともに文化都市として飛躍したいものである。

2) …川越ルネッサンス「おいで館」の再現。

川越の伝統と個性にマッチした多目的小ホールの建設。

※かつて旧市街地北部の時の鐘の近くに落語、曲芸、民踊、大道芸が上演される寄席「おいで館」があり、賑わったという。庶民文化の花が咲き、老若男女が集う社交場でもあったと伝えられる。

3) …成人文化大学の建設

地域文化、精神文化、情緒文化を見直し育成することを目的として開校する。カリキュラムには盆栽、お座敷芸なども組み入れたい。

4) …市制作映画の普及PR

川越の四季、年中行事、名所旧跡、伝統文化などを素材にして市が制作した各種映画、VTR、スライドなどの普及PR運動を推進する。

※公民館、自治会館などでの巡回上映会も考えたい。とくに新市民が対象となる。

5) …マチの名工、伝統職人の後継者の育成。

市制60周年記念事業の一つとして初雁賞を受賞したマチの名工、伝統職人の後継ぎの見直し。後継者に対する行政補助制度採用と育成を図る。

6) …「まつり」の見直しと創造

伝統の秋まつり、新しい市民交流の夏まつり。その原点と時代に合った運営方法を再考したい。大勢の市民が気軽に、自由に参加できる方法はないのだろうか。

※「まつり」はふれあいのドラマ。「まつり」の源動力は、マチに対する愛着心と地域の連帯感である。新しい文化を生みだす温床でもありたい。

7) …市観光協会の民営化

観光都市としての一面をもつマチにふさわしい観光協会の完全なる民営化を図る。あわせて、文化、観光事業の企画、運営、管理などの民営化を推進する。

※市内に散在する文化、観光資源の保全と活用をすすめる。

8) …郊外に広がる大公園とマチの中の小公園の建設。

初雁公園から伊佐沼公園までを統合した緑豊かな大公園の建設を推進する。そこには、美術館、博物館、さらに植物園(植樹園)なども建設し、上野公園の川越版とする。市の木「カシ」、市の花「山吹き」を大量に育成し、全市的に苗木を配布する。

一方、マチの中にはミニ広場を開発し、多目的な小公園として活用したい。その一部では野外コンサートのできるステージを建設し、イベント広場と

して解放する。

《スポーツ》

現状からの延長として、川越市体育協会の活動を拡充することが根本となる。そのためには、各種スポーツ施設の拡充がベースとなり、並行して指導者、管理者の系統的な育成が不可欠なこととして取り上げられる。

1) …学校、市有施設の開放。

有休施設の有効開放を推進する。そのためには、利益者（利用者）の負担による自主管理の徹底を図る。

2) …県営水上公園の早期実現

海に遠く、プールも少ない川越っ子の夢である県営第3水上公園を一日も早く実現させる。

※県西部地区を対象とした公園だが、川越市民の積極的な参加により建設する。名称（ネーミング）も川越にふさわしいものを市民から公募する。

※施設は通常のプールに加えて、水生植物園、淡水魚水族館（ミヤコタナゴなど県西部に生息する魚介類を収集）などを作り、県西部の水生生物の一大センターとする。

※水をテーマとした若者のための音楽広場や屋外ステージを作り、花火大会の復活やスケート大会なども催すことを考えたい。

※公園内の広場は、ソフトボール、ゲートボールのコートにも転用し、壮年や老人にも活動の場として提供したい。

3) …総合運動公園建設にともなう専用スポーツロードの確保

総合運動公園のできる老袋地区まで、初雁公園からつづく専用スポーツロードの建設。ジョギング、ウォークソン、サイクリングなどが幅広く楽しめるもの考える。

※各公園をめぐるスポーツ、レジャー専用の道路建設も考えられる。

4) …スポーツ指導者、管理者の本格的な育成と行政援助を図る。

社会的、経済的に確立された指導制度の実現をすすめる。

※単にボランティアとしての指導には限界がある。精神的にも経済的にも負担がかかりすぎる。

■C…生活環境・地域社会・市民生活

この分野は、とりわけ三つの言葉（要素）が同位次元で語られ、考えられなければならないだろう。『基本構想』に言われている「快適で暮らしやすい都市」、「明るく心のかよい住みよい都市」とは一体どんなものか。現状を踏まえ、考えられるいくつかの問題点について取り上げてみたい。

《防災、交通安全について》

1) …川越市内南北の幹線（中央通り、川越街道）道路の交通渋滞緩和を図る。

自動車交通の市内での全面的規制を具体的に考えてみたい。あわせて幹線道路のリング（輪型）化と、一方通行の見直しによる交通緩和と歩道の確保を図る。

※緑の細道（七曲りなど横丁）の整備を積極的に推進する。

2) …川越の個性、文化にひたれる散策路の整備。

※歴史的、文化的な施設や、これから建設される近代図書館、（仮）川越城跡博物館などを含めた川越ラバーズレーン（老若を問わず恋人たちの散策路）、川越あいらんどレーンの新設、整備を推進する。

3) …防災拠点となる小・中・高校の防災システムと、その施設整備を図る。

※非常用の飲料水の確保、非常用の燃料、食糧の備蓄と施設の整備を見直す。

※応急プレハブ住宅の準備。

4) …非常用情報伝達システムの推進。

送る情報、受ける情報の回路の確立。街頭マイク放送など、有線、無線施設の整備を図る。

※常時は交通情報、各種の催しものやイベントのPR、迷い子情報、防犯情報、気象情報など、行政機関や団体情報の普及に活用できる。

※アマチュア無線の活用。協力者には一定の予備電源などの供給をしておくことが考えられる。

《供給処理施設の整備、拡充について》

1) …市街地内での供給処理施設の一元化の推進。モデル共同溝の開発の早期実現を図る。

2) …供給種類別のミニトレンチの開発の推進。

下水道管の中に給水、ガスの本管を共同埋設。また、光ファイバー方式などの新しい通信システムを前提としたCATV、電話などの一元化を図る。

3) …大規模施設から出る使用水の再利用計画の推進。

※とくに中水道計画の開発を図る。

4) …大規模駐車場の地下の有効利用。

デパートやマンションの駐車場の地下を雨水貯留、中水貯留の場として活用することを考える。また、市街地の電線埋設用変電所の用地として利用する。

5) …下水道未整備地域の家庭生活雑排水の処理対策の推進。

流末の河川浄化対策として、早急に各家庭、グループ単位で簡易浄化槽をつくる制度を図る。

※天竜市、伊奈市などの各河川の上流にあたる地方には、この制度が多くあり、そのための貸付金も準備されている。

《公園、緑地の創出・保全・再生について》

現在、市内の神社仏閣のほとんどは公園、緑地などに指定され、市がつくり出した公園は無いに等しい。その現実を前提として考えてみたい。

1) …樹木や緑の確保

各神社仏閣の個性を生かした植樹、植栽の計画をたて推進する。

※高齢化した古木の保全と、新たに補植を図る。高齢化した大木の枝おろしの補助金制度をすすめる。

※桜は30年～40年で古木となる。その中間期に補植すれば、いつまでも桜並木が維持できる。

2) …武蔵野の雑木林の保全。

市内各地に残る雑木林を「市民の森」として確保する。

※ナショナルトラスト制度を導入し、市民が一株の樹、一坪の土地を持ちあい、後世に残すことを図る。

3) …公園拠点の整備。

東北部の公園拠点として伊佐沼周辺の整備を図る。

※冬でも水を落さずポート池、フィッシングセンターとし、白鳥の定着化、渡り鳥のえづけをする。野鳥のサンクチュアリーとしたい。

北部の公園拠点として入間川、小畔川、越辺川の合流点に大調整池をつくり、周辺の水害防止を図る。

※常時は陸上競技、サッカー、ラグビーなどのスポーツ公園として整備を図る。

※旧川越商高跡のグラウンドを移転し、跡地は川越歴史博物館の用地とする。

《アメニティーの確保について》

乱開発(スプロール)された地域のマチ並みの美化など環境の再開発を推進する。

1) …乱開発に対する規制強化。

乱開発の規制強化政策をとり、川越市全体の文化水準を向上させる政策を展開する。

2) …河川の浄化対策。

生活雑排水の浄化などを含めて総合的に推進する。とくに新河岸川（赤間川）、不老川の浄化を早急に進め、冬も水の流れを止めない清流を再生する。

※堤防の間知（けんち）ブロック張りを止め、土にもどし緑地の再生を図る。

※河川の堤防には桜並木などの植樹をして市民の憩いの場とする。

3) …緑のマチの協定。

市民の総意で親しみやすい緑の確保、保全をすすめるために市民意識の高揚を図る。

※ブロックベイを改修して「緑の垣根」にするため、市民に長期的な財政援助（補助、貸付）制度を推進する。

※川越のマチにふさわしい花が四季を通じて咲いている施設を建設する。

家庭や職場では花の年間スケジュールをたて、市は種子や苗木を配布する。

4) …川越のテーマカラー

川越のマチのイメージカラー・コンディション構想をつくり、町並みの外壁、屋根の色などのファッション化を図る。

5) …町並み景観構想。

マチづくりのためのデザインの統一性を図る。

※建物の色調、高さの一元化。

※広告看板など屋外装飾を含めたデザイン化。

6) …清潔なマチ条例。

散策路や市街地の歩道に適当な間隔でポケットパーク（小休憩公園）や、

水飲み場、さらに清潔なクリーンキャビン（公衆便所）などを系統的に建設する。市民のモラル向上と観光都市・川越のイメージアップを図る。

※立小便禁止条例の制定。

《新総合センター建設について》

1) …市街地でない地域に建設するパイロット事業として、若者を中心とした施設構成を考える。

2) …若者を中心として、老人、身体障害者の人たちにも十分に応え得る暖かい人間のふれあいの場とする。ボランティア活動の発想点となれるような施設づくりとしたい。

《市街地の文化の再発掘について》

1) …潜在的な文化財（商家の蔵の奥深くしまわれているもの）や、他所の博物館に行っている文化財を川越に呼びもどす。川越城跡公園に博物館を建設し、それら文化財の常設展示を推進する。

《分野別の芸術施設の建設》

1) …オペラができる専用のオーケストラホールをつくり、より高い水準の音楽を市民に提供する。

2) …日本伝統芸術の継承を図るために、能楽堂の建設をすすめる。

3) …400人～500人を収容する市民のための小ホールを建設する。

《コミュニティ》

1) …小規模の幼児公園、集会場を各地区の要望に応じて随所に建設する。

※行政体は施設の建設だけで、地区への介入は避ける。運営、管理はすべて地区住民に任せる。

※向う三軒両隣りで、まず基本的な市民同志のコミュニティづくりを推進する。

